

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテや保管されている試料（肝臓組織）を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】 肝臓手術における虚血再灌流障害と NLRP3 インフラマソームに関する後ろ向き研究

【研究機関】 愛媛大学医学系研究科 肝胆膵・乳腺外科

【研究責任者】 坂本明優（肝胆膵・乳腺外科 医員・大学院生）

【研究の目的】

肝臓虚血再灌流障害（IRI；ischemia reperfusion injury）は術中の肝虚血と再灌流により肝組織傷害をもたらすことで肝臓手術後の肝傷害、肝不全を引き起こす重要な因子です。一方、NLRP3 インフラマソームは NLRP3、ASC、caspase-1 から構成され、IL-1 β や IL-18 を活性化し炎症反応を惹起するタンパク質複合体です。近年、肝臓 IRI と NLRP3 インフラマソームとの関連が注目されています。当院での手術検体を用いて、肝臓 IRI と NLRP3 インフラマソームの関連を検討することで今後の診療に役立てられると考えています。

【研究の方法】

（対象となる患者さん） 2009 年 7 月から 2021 年 9 月に愛媛大学医学部附属病院にて肝臓切除手術、肝移植手術を受けられた患者さん

（利用するカルテ情報） 性別、年齢、背景肝、手術時間、虚血時間、出血量、術後肝機能、術後合併症、術後グラフト開存、術後死亡病理結果

（利用する試料） 通常の診療で使用した後残った試料（肝臓組織）

【個人情報の取り扱い】

収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

<試料・情報の管理責任者>

愛媛大学医学系研究科 肝胆膵・乳腺外科学講座 坂本明優

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、**【お問い合わせ先】**までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院 肝胆膵・乳腺外科 坂本明優

791-0295 愛媛県東温市志津川

Tel: 089-960-5327